クランクシャフトサポートアダプター　取扱説明書

製品番号	01-10-0137

適応車種	Z125PRO（BR125H-A02621 ～）

この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。
使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。
万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合があります。予めご了承下さい。

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。
◎当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どの様な事柄でも一切負いかねます。
◎当製品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。
◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。
◎当製品は、上記適応車種、フレーム番号の車両にて、適応条件を満たす車両専用品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意下さい。
◎当製品の取り付けには、上記適応車種にあった純正サービスマニュアルを必ず参照し確実に行って下さい。
◎当製品の取り付けにはローターホルダー（弊社製品番：00-01-1001）等が必要です。
◎クランクシャフトに標準値以上に振れが発生している場合は振れ取り作業を行うか、クランクシャフトの交換を行った後に取り付けて下さい。

～特　徴～

〇クランクシャフト末端に取り付けられるフライホイールは非常に重たく、シャフト部分には、ねじれやたわみ等の負担が掛かります。エンジンの高回転化・高出力化に伴い更にこの負担は増大し、過酷な状況となり、場合によってはクランクシャフトの破損＝エンジン自体の破損を招きかねません。当製品はクランクシャフトフライホイール側末端にボールベアリングによる支持を増やすことにより、シャフトのたわみを抑え、クランクシャフトを高回転までスムーズに回転させる事が出来、耐久性を高める事が可能です。振動が抑えられ、実質的にエンジンの機械的性能が向上しますので、ライトチューニングからハイチューニングまで幅広く有効な商品です。
〇クランクシャフトの交換等の大掛かりな作業を必要とせず、ご使用中のクランクシャフトに簡単な取り付け作業によってご使用頂けます。

⚠ 注意　この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

■作業等を行う際は、必ず冷間時（エンジン及びマフラーが冷えている時）に行って下さい。（火傷の原因となります。）
■作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。（部品の破損、ケガの原因となります。）
■規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行って下さい。（ボルト及びナットの破損、脱落の原因となります。）
■製品及びフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行って下さい。（ケガの原因となります。）
■走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いかを確認し緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行って下さい。
（部品の脱落の原因となります。）
■ガスケット、パッキン類は、必ず新品部品を使用して下さい。また、再使用する部品については、よく点検し摩耗や損傷がある場合は、必ず新品部品と交換して下さい。（ トラブルの原因となります。）

⚠ 警告　この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

■エンジンを回転させる場合は、必ず換気の良い場所で行って下さい。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。
（一酸化炭素中毒になる恐れがあります。）
■走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。（事故につながる恐れがあります。）
■作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行って下さい。（作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。）
■点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。
（不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。）
■点検、整備等を行った際、損傷部品が見つかれば、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行って下さい。（事故につながる恐れがあります。）
■製品梱包のビニール袋は、幼児の手の届かない所に保管するか、廃棄処分して下さい。（幼児がかぶったりすると、窒息の恐れがあります。）

◎性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品及び価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。
◎クレームについては、材料及び加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後１ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。
但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。
なお、レース等でご使用の場合はいかなる場合もクレームは一切お受け致しません。予めご了承下さい。
◎この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいます様お願い致します。

製品内容

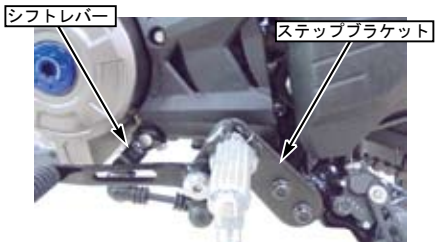
番号	部　品　名	個数	リペア品番
1	シャフトナット	1	00-00-2600
2	フランジベアリング COMP.	1	00-00-0979
3	ナベ小ネジ 6x28	2	00-00-0692（5ヶ入り）
4	ジェネレーターガスケット	1	00-01-0058

※リペアパーツは必ずリペア品番にてご発注下さい。
品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。予めご了承下さい。
尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さいます様お願い致します。

株式会社 スペシャルパーツ 武川
〒584-0069 大阪府富田林市錦織東3-5-16
TEL:0721-25-1357 FAX:0721-24-5059 URL http://www.takegawa.co.jp

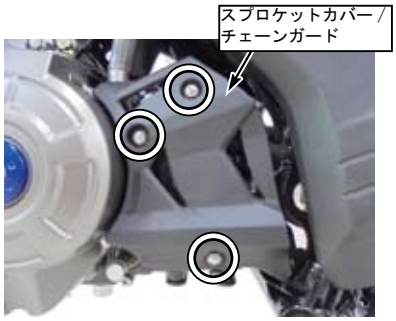
■取り付け要領　※特に記載の無い細部の取り付け方法や規定トルクにつきましては、純正サービスマニュアルを参照して下さい。

○サービスマニュアルを参照してシフトレバー、ステップブラケット、ロアカウリングを取り外す。



○エンジンオイルを排出する。

○ボルト 3 本を取り外し、スプロケットカバー / チェーンガイドを外す。



○オルタネータカバーからのハーネスの接続を外す。

○ボルトを対角に数回に分けて緩めて取り外し、オルタネータカバーを取り外す。

※磁力によってオルタネータカバーを引っ張り込む力が作用しているので指を挟まない様に注意する事。

○ノックピン 2 本を外し、クランクケースやオルタネータカバーの取り付け面に残ったガスケットをきれいに取り除く。

○ローターホルダーにてフライホイールを固定し、ナットを外す。

○付属のシャフトナットにネジロック剤を塗布し、取り付ける。
推奨ネジロック剤 :LOCTITE243 又は相当品

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。
シャフトナット
トルク：74N・m（7.55kgf・m）

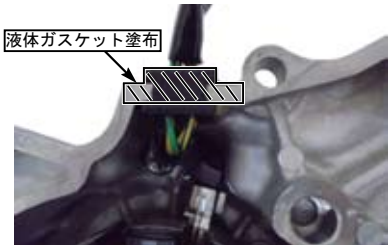
○ステータコイルをオルタネータカバーに固定している 2 本のネジを取り外す。

○付属のフランジベアリングをステータコイル中央部にはめ込み、セットする。

○付属のナベ小ネジ 6x28 2 本にネジロック剤を塗布し取り付ける。

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。
ナベ小ネジ
トルク：5.2N・m（0.53kgf・m）

○オルタネータカバーのグロメット周辺を脱脂し、液体ガスケットを塗布する。
推奨液体ガスケット
：スリーボンド TB1211F（カワサキ品番 :92104-0004）
又は相当品

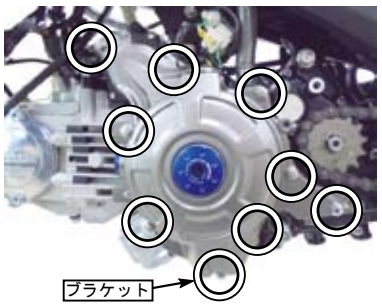


○ノックピン 2 個と付属のガスケットをクランクケースに取り付け、オルタネータカバーを取り付ける。

※磁力によってオルタネータカバーを引っ張り込む力が作用しているので指を挟まない様に注意する事。

○ブラケットと共にボルトを取り付け、対角に数回に分けて締め付ける。

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：8.8N・m（0.9kgf・m）



○ボルト 3 本にて、スプロケットカバー / チェーンガイドを取り付ける。

⚠ 注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：5.2N・m（0.53kgf・m）

○オルタネータカバーからのハーネスを接続する。

○規定量のエンジンオイルを注入する。
エンジンオイル量
・ノーマルクラッチカバー
：800cc（オイルフィルター未交換）
：900cc（オイルフィルター交換時）
・弊社製スペシャルクラッチカバー
（ノーマルクラッチ及び弊社製スペシャルクラッチインナーキット）
：900cc（オイルフィルター未交換）

※弊社製コンパクトクールキット装着車の場合、4 フィン：約 60cc/3 フィン：約 40cc 追加する。

○サービスマニュアルを参照してロアカウリング、ステップブラケット、シフトレバーを取り付ける。

○各部を点検し、ネジやナット等の緩みが無いか確認する。

○風通しが良く、安全な場所で十分注意してエンジンを始動し、各部にオイル漏れや、エンジンからの異音が無い事を確認する。エンジンを止め、約 2 ～ 3 分後オイルレベルゲージ（スペシャルクラッチカバーの場合は、オイル点検窓）にて基準範囲内である事を確認する。ネジやナット等の緩みが無いか再度点検する。

⚠ 警告：エンジンを始動させての点検は、必ず換気の良い場所で行って下さい。
密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。（一酸化炭素中毒になる恐れがあります。）